

池田珠代とジェラール・プーレ
夢の共演

出演者 — 池田珠代 (ピアノ)
ジェラール・プーレ (ヴァイオリン)
ゲスト — 大谷祥子 (箏・三味線)

パリ、貴婦人たちの 音楽サロン文化

ロマン派からジャポニズム ~世紀の狭間で~

ショパン、リスト、フォーレ、ドビュッシーなど
京都府立府民ホールアルティ

2019 10/16 水 開場 18:30
開演 19:00

入場料

一般 3000 円 (前売 2500 円)
学生 1000 円 (全自由席)

チケット
取り扱い

京都府立府民ホールアルティ
TEL: 075-441-1414

問合せ

日仏音楽の架け橋演奏会実行委員会
salon.master@mc.com

主催

日仏音楽の架け橋演奏会実行委員会
事務局: 京都伝統工芸館
TEL: 075-229-1010

協力

学校法人二本松学院 京都伝統工芸館
一般財団法人本願寺文化興隆財団
ジャポニズム振興会、文化庁 地域文化創生本部



後援

京都府、京都市
在京都フランス総領事館
京都市教育委員会
京都日仏協会 (申請中)

※会場となりますホールには、駐車場がございませんので
ご来場の際はできるだけ公共交通機関をご利用ください。



パリ、貴婦人たちの音楽サロン文化

ロマン派からジャポニズム ～世紀の狭間で～

TAMAYO IKEDA invite GÉRARD POULET

« Le salon musical des dames parisiennes » Du romantisme au japonisme, au tournant du siècle Chopin, Liszt, Fauré, Debussy etc...

◆はじめに

芸術の都、パリ。ショパンやリスト（19世紀）、フォーレ、ドビュッシー（20世紀前半期）の時代、パリの社交界の中心となったのは産業界で成功して富を得たブルジョワ階級の夫人、貴族夫人たちによるサロンでした。

サロンとは17世紀頃から発達した、宮廷や貴族の夫人の邸宅で互いの交流を深めるために開かれた社交の場です。女主人がパトロンとしての役割を担うべく、彼女ら自身が厳選した文学、哲学、美術、音楽界のエリートたちを常連客として社交界のトップにたち、新しい思想や文化はこの女性達がそのために解放する自宅や別宅にあるサロンによって生み出されました。シンガー・ミシンで富を得たシンガーの娘ウィナレッタ・シンガー、後のポリニャック公夫人、ブルストの『失われた時をまとめて』のゲルマント公爵夫人の主要なモデルとなるグレフェール伯爵夫人などが有名です。彼女らに選ばれたメンバーたちは、男女ともにサロンに集って政治談議や哲学に花を咲かせ、女主人が選び抜いた作曲家のコンサートを聴きながら芸術論を戦わせ、それぞれの作風やパフォーマンスを確立していったのです。その女性たちに護られた作曲家の代表がショパン、リスト、フォーレなのです。

ドビュッシーは1870年普仏戦争から1914年第一次世界大戦勃発までの東の間の平和の時代、ベルエポックの寵児。1899年にパリ世界万国博覧会の為にエッフェル塔が建てられ、すでに人気だった浮世絵が代表するジャポニズムの真っ只中にいました。ゴッホ、モネなどが絶賛した日本特有の、間、そして尺八に代表される「一音成仏」という感覚がドビュッシーに影響を与えました。北斎の木版画が交響詩『海』の表紙に使われたことは有名です。ジャポニズム旋風はロシアの作曲家まで広がり、浮世絵や和歌の二面性に感動を受け、ストラヴィンスキーはあの『春の祭典』を作曲した同年に『春』を季語とした万葉集の山部赤人などの和歌に作曲しました。このコンサートでは、三味線とピアノの演奏で、ゲストにお迎えした大谷祥子氏の海外の方々も魅了する素晴らしい唄声を聴かせていただきます。

ドビュッシーのヴァイオリンソナタはドビュッシーと交流の深かった、ガストン・プーレ（ジェラルム・プーレのお父様）が1915年にドビュッシー自身のピアノで初演しました。親子2代の歴史を持ちフランスの伝統を守る最後の巨匠、ジェラルム・プーレのドビュッシーヴァイオリンソナタ、そしてパリを中心としたサロン文化からジャポニズムまでの音楽をお楽しみいただきたいと思います。

池田 珠代

◆プログラム

ショパン / ノクターン 第1番 変ロ短調 Op.9-1 (1831)

フォーレ / ノクターン 第6番 Op.63 変ニ長調 (1894)

ショパン / アンダンテ・スピアナートと華麗な大ポロネーズ 変ホ長調 Op.22 (1831、1834)

リスト / ハンガリー狂詩曲 第2番 S.244 嬰ハ短調 (1847)

フォーレ / ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第1番 Op.13 イ長調 (1875)

ストラヴィンスキー / 『3つの日本の抒情詩』より第一番 Akahito (山部赤人) - 『日本の抒情詩』19番

万葉集 8.1426 「我が背子に見せむと思ひし梅の花それとも見えず雪の降れば」(1912)

宮城道雄 / 春の海 (1929)

ドビュッシー / ヴァイオリンとピアノのためのソナタ (1916-1917)

◆出演者・ゲスト



池田珠代 / Tamayo Ikeda (ピアノ)

横浜雙葉、桐朋女子高ピアノ科卒。1989年渡仏以来30年に渡りフランス在住。パリ国立高等音楽院入学しジャックルビエ、レジスバスキエ、ジャン＝ミシェルダマーズ氏に師事。1993年ピアノ、1995年室内楽の両部門において同音楽院の金賞受賞。後、同音楽院演奏科マスターコースに入学。APEF、ソシエテジェネラル銀行の奨学金として研究を続けると同時にドミトリ・パシキフ、ハリナ・チェルニー、ステファンスカ、レオン・フライシャー氏などにも教養を受ける。イヴォンヌ・ルフェール国際ピアノコンクールにおいて、第二位受賞。同時に、ドビュッシー賞も受賞。そのほか、ボルト市国際コンクール（フランス音楽賞同時受賞）、エビナルピアノ国際コンクールなど数々の国際コンクールに入賞。またアーラン国際ピアノコンクールにおいて、大賞第一位を受賞。（ロベール・カサドゥス賞も同時に受賞）。モンペリエ国立音楽院で教鞭をとりながら、コンサート、ラジオ・フランス、テレビも数多く出演。現在は世界各国でソロ奏者、室内楽奏者としてのコンサート活動のかたわらパリ郊外音楽院で教鞭をとっている。CD録音ではピアノソロでアーラン・フォーレ集（Arcobaleno）、またピアノ1台4手連弾（ラヴェル、ストラヴィンスキー集）のDVD（Creative Arts）が発売された。2007年には、ニューヨークのカーネギーホールデビュー。2009年、シュベルトピアノ連弾集（ワーナーレコード）、2015年にピアノダンス集が発売（ハーモニアムディ）、2020年にはジェラルム・プーレとのロシア音楽集（continuo classique）が発売、またジャズピアニスト、ジョバンニ・ミラバッソともCD録音が予定されている。ジャポニズム振興会パリ支部 Cercle Âme du Japon アートディレクター。



ジェラルム・プーレ / Gérard Poulet (ヴァイオリン)

指揮者とヴァイオリニストであったガストン・プーレの息子で、天才少年期を送る。父ガストンは最晩年のクロード・ドビュッシーと親交があり、ドビュッシー生前最後のコンサートでドビュッシーのヴァイオリンソナタをガストンのヴァイオリン、ドビュッシーのピアノで初演している。11歳でパリ国立音楽院に入学し、2年後には審査員全員一致の首席で卒業。18歳の時には、イタリアのジェノヴァでのパガニーニ国際コンクールで最優秀賞を受賞。ジノ・フランチェスカッティ、ユーディ・メニューイン、ナタン・ミルシテイン、とりわけ彼の精神の父となったヘンリック・シェリング等の世界的巨匠達の教育を受けながら、数々のコンサートをしキャリアを世界中に広めた。して数多くの国際コンクールの審査員に招聘されている。偉大な教育者でもあり、長年教授を務めたパリ国立高等音楽院を2003年に退官後、パリ CNR 市立音楽院のソリストコースとエコール・ノルマル音楽院で教鞭を執り、2005年4月から2009年3月まで東京芸術大学の客員・招聘教授、2010年4月からは昭和音楽大学の客員教授を務めている。ウィーンや北京の音楽院でも教える他、京都フランス音楽アカデミー、いしかわミュージック・アカデミーを始め世界中でマスタークラスを行っている。1999年文化功労賞を受賞、2019年フランス芸術文化勲章叙勲。2019年夏、自身の名を冠したジェラルム・プーレ ヴァイオリンコンクールを妙高で開催予定。自ら審査員を務める他、澤和樹と堀正文も審査員として参加する。



ゲスト 大谷祥子 / Shoko Otani (箏・三味線)

東京芸術大学音楽学部邦楽科を卒業し、京都大学文学部聴講生のかたわら、仏教音楽研究、日仏音楽交流事業に携わる。現在、本願寺裏方、本願寺文化興隆財団参議、吉崎御坊連上人記念館館長として蓮如の生涯の研究を進める他、京都市「DO YOU KYOTO？」大使、ジャポニズム振興会副会長などを務める。